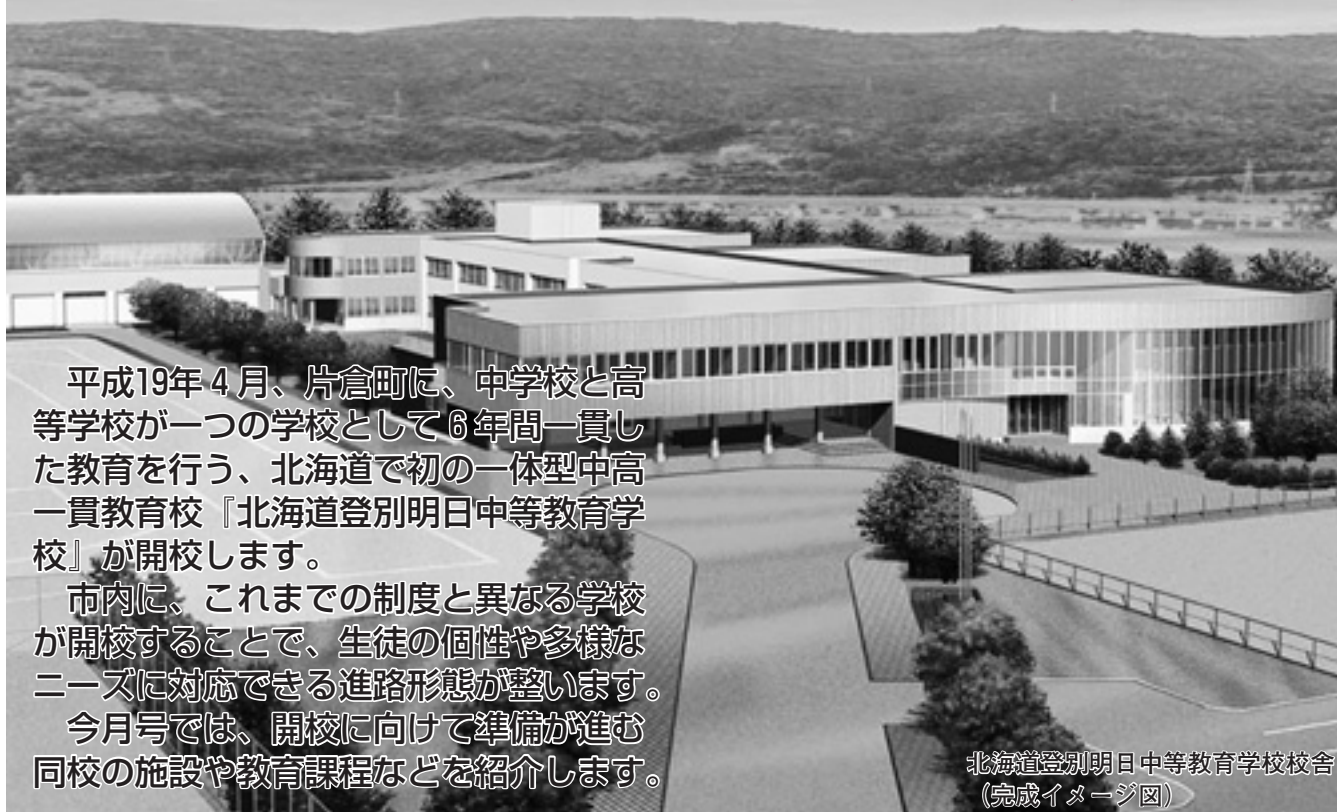


特集

特色ある学校づくりを目指して

あけび
～平成19年4月開校！北海道登別明日中等教育学校～



平成19年4月、片倉町に、中学校と高等学校が一つの学校として6年間一貫した教育を行う、北海道で初の一体型中高一貫教育校『北海道登別明日中等教育学校』が開校します。

市内に、これまでの制度と異なる学校が開校することで、生徒の個性や多様なニーズに対応できる進路形態が整います。

今月号では、開校に向けて準備が進む同校の施設や教育課程などを紹介します。

北海道登別明日中等教育学校校舎
(完成イメージ図)

中高一貫教育校誘致のこれまでの取り組み

登別市への中高一貫教育校誘致に向けた本格的な取り組みは、平成9年にさかのぼります。

同年4月、教育関係者や市民が参加した『新しい公立高等学校のあり方を考える会』から市に、「生徒の個性を重視した新しいタイプの高等学校を」など、4項目にわたる提言書が提出されました。

以来、市民、議会、行政による粘り強い誘致に向けた取り組みにより、平成15年7月、北海道教育委員会は登別市への設置を決定し、平成16年8月から、道内初の中等教育学校の建設が始まりました。

中等教育学校は、中学校に当たる前期課程3年間と、高等学校に当たる後期課程3年間が一つとなり、6年間の一貫した教育を行う学校です。そのため、高校受験のない6年間の計画的・継続的な学習を通して、確かな学力などを一層身に付けることができることや、異年齢の生徒たちによる活動を行うことで、豊かな心をはぐくむことができることなどが、その利点として挙げられます。

中等教育学校の校名が決定

中等教育学校の校名は、平成17年7月に公募を行い、道内各地から119

点の応募がありました。いずれの校名にも、子どもたちの将来を託す夢や願いが込められ、中等教育学校への期待の高さを感じさせるものでした。

この中から、北海道教育委員会で検討した結果、校名は『北海道登別明日中等教育学校』に決定しました。由来は、『明ける日』『日が明ける』という明るいイメージで、同校に学ぶ子どもたちや学校そのものが、降り注ぐ人びとの支援などの光によって、日ごとに明るく、輝きを増していく姿を思い浮かべたものです。また、指導者が、明日につながる教育を行い続けることを意思表示するという思いも込められています。

中等教育学校の教育課程

安定した環境の中で、生徒一人ひとりの個性や創造性を一層伸ばしていくため、

- 6年間を基礎期・充実期・発展期に分けた弾力的な教育課程の編成
- 生徒の発達段階に応じた授業時間の設定
- 習熟度別学習や少人数指導、ティーム・ティーチング（授業を進める教師と生徒に個別に対応する教師が綿密に協力し合って、生徒の習熟度などに合わせて指導を行う）など、授業形態の工夫

を重点に、教育課程を編成します。